

東京医療センター

移行期医療支援のご案内



大人になる前の準備を しましょう

子どもから大人へ成長することで、子どものときとは違う治療が必要になることがあります。

こうした子どもから大人への移り変わりを「**移行期医療**」といいます。

自分の病気や治療について理解し、自分に合った医療を受ける準備をしていくことが大切です。

自立に向けて

自分で治療の決定や生活の管理ができるよう、病気や治療について学びます。

小児医療から成人医療へ

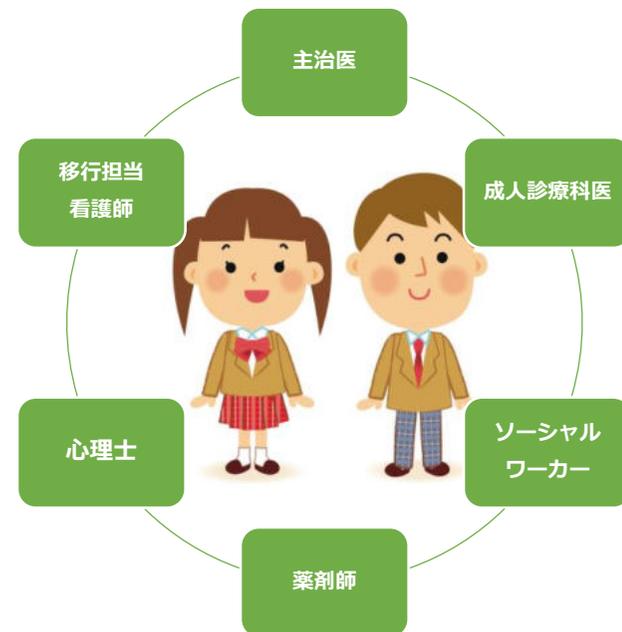
病気や生活が安定しているときに、成人医療へ移る準備を進めていきます。

自立に向けての支援 (自立支援)

〈自立支援の目標〉

- ・ 病気や治療についての理解を深める
- ・ 体調不良時に受診行動がとれる
- ・ 服薬の自己管理ができる
- ・ さまざまな不安や危惧を周囲の人に伝え、必要時サポートを求められる

上記のことを目標に、多職種でサポートしていきます。



小児医療から成人医療への円滑な移行の支援

● 個々の病気や状況に合わせて医療の受け方を決めていきます。



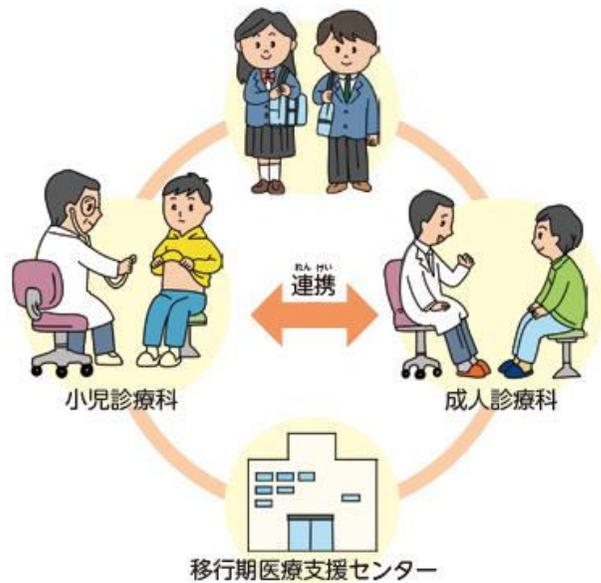
①はじめは小児診療科と成人診療科を交互に受診し、いずれは成人診療科のみへ



②小児診療科と成人診療科の両方に受診



③小児診療科の受診を続ける



具体的には、どのようにすすめていくのですか？

外来受診時に、移行支援担当看護師がお子さまと面談を行います。

自立支援の目標を達成できるようにお子さまと病気や治療、セルフケアや日常生活について確認しながら支援を進めていきます。

お子さまが自分の病気をしっかりと理解することで、治療の選択や病院選びをする場面で自己決定できる力が備わっていくと思います。

■ 成人移行に向けた年代別目標

12歳～中学生 成人医療への移行の流れや必要性を理解する。

15歳～高校生 移行過程であることを認識し、少しずつ自己管理ができるようになる。

18歳～ 患者さん自身がケアに関して、かなりの程度で自立する。

お子さまとご家族が不安なく支援が受けられるように、時間をかけて話し合っていきます。

あなたのココロとからだの成長に合わせて、サポートしていきます。

- 自分の病名が言える
- 病気や治療、検査について説明を受ける
- 病気や治療について質問できる
- 薬を自分で管理できる
- 日常生活上の注意点を理解し生活できる
- 病状が悪くなったときの対処ができる
- 自分の健康状態を説明できる
- 周囲にサポートを求めることができる
- 治療について情報を集めて自分で決めることができる
- 自分にあった医療機関を選ぶ
- 妊娠や出産への影響について理解できる
- 将来の生活や夢をイメージできる